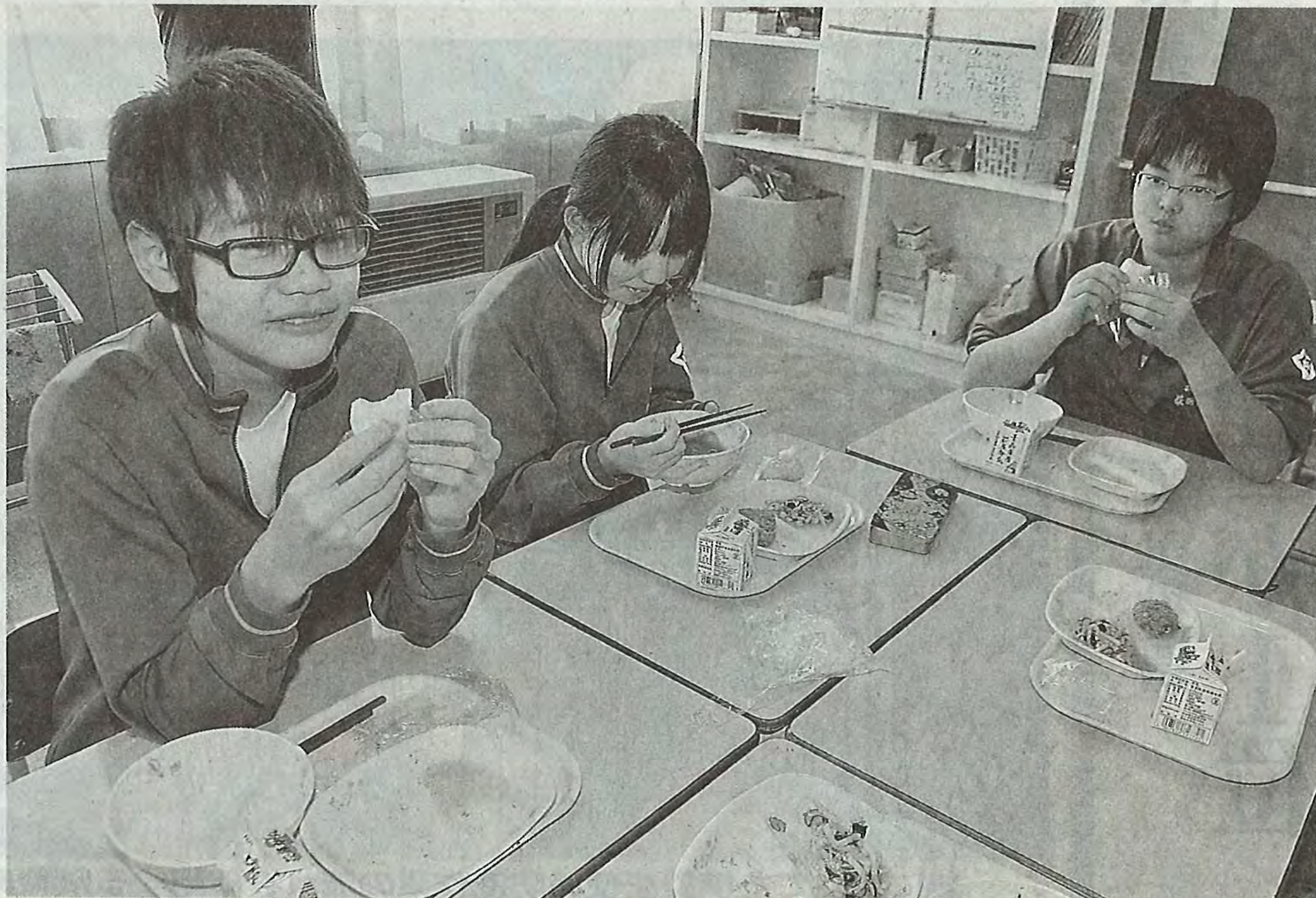


赤い果肉の新リンゴ「紅の夢」

酸味があつておいしい

碓ヶ関中生、給食で試食

平 川



弘前大学が2010年に品種登録した、赤い果肉のリンゴ「紅くれない」の夢」の試食会が20日、平川市の碓ヶ関中学校（西谷龍彦校長）で行われ、全校生徒52人が給食と一緒に頬張りながら、「酸味があつておいしい」と笑顔を見せた。

（成田亮）

弘大と同市は、官学連携の一環として、紅の夢の生産、加工、販売を行うための体制づくりに取り組んでおり、碓ヶ関地区の加工業者「アップルフアクトリージャパン」が試作品のカットリンゴを製造するなどしている。

育成に携わっている弘大藤崎農場の松本和浩助教らが碓ヶ関中を訪れ、給食の時間の校内放送で「見た目をきれいにし、少しでも多くの人たちに食べてもらいたいと作ったリンゴです」などと紹介した。

生徒たちは、弘大藤崎農場で生産され、地元のアップルフアクトリージャパンが加工した赤い果肉のカットリンゴを珍しそうに眺めながら、給食の最後は一切れずつ口の中に入れて頬張り、弘大が配布したアンケート用紙

に見た目や味などの感想を書き込んだ。

木村祥樹君（3年）は「少し酸っぱかったけど、名前の通り夢を見るぐらいおいしかったです。見た目もきれいだし、また食べてみたい」と大喜びしていた。

弘大は来春にも、同市や地元の加工業者らとともに加工品の商品化に向けた協議会を設立するほか、同市の一部の生産者が試験的に栽培を始める予定。

松本助教は「食育の場などで子どもたちに紅の夢について知ってもらいながら、リンゴの消費拡大につなげていきたい」と話した。

「紅くれない」の試食会に参加する生徒たち

この日は、紅の夢の